

学校だより 芝っ子

令和5年9月27日
松本市立芝沢小学校



“みやましい”の心を大切に～2学期始業式校長講話より～（抜粋）

「みやましい」という言葉を聞いたことのある人はいますか。多分ほとんどの人が初めて聞く言葉かと思います。

皆さんは、窪田空穂さんを知っていますか。

学校の近くに「窪田空穂記念館」もあり、整美委員会の皆さんが清掃に行ったり、1年生が七夕を飾りに行ったりと本校ともすごく関りががありますね。空穂さんは、和田村（今の和田地区）出身で次のような人です。皆さんの大先輩なのです。

また、本校が芝沢小学校になる前、和田小学校と新村小学校という2つの学校だったのですが、実はその時に本校で先生をしてくれたり、その後、和田小学校の校歌を作ってくれたり本校にもとても縁の深い方です。

空穂さんのお仕事は一番は歌人といって、短歌作りで大変有名で、当時の日本文学界の中でも優れた方で、文化功労者に選ばれました。また、短歌作りだけでなく、文章を書くのにも長けた人で、そちらの業績も皆に認められています。実はこの空穂さんが生涯に書いた文章の全てを集めた全集が、この学校に縁が深いということで、ご家族から寄付をされて、本校の校長室に「宝物」として保管されています。その「文章の達人」の空穂さんが、「ふるさと」という題で書いた随筆という文章を見つけました。

『信州（長野県）には「みやましい」ということばがある。働くことをきらわないという意味で、農民の道徳の根本（もと）になるものだ。（中略）柳田国男先生

（この人も大変有名な先生で、日本の民俗学を作り上げた人です）にきいたところ、このことばは全国に通用するといっていた。信州人は、概して（ほとんどの人はという意味です）「みやましい」性格をもっている。この良風（良い習慣という意味です）をいつまでも持ちつづけてほしい。』

この文章が書かれたのは、昭和41年ですので、今から50年以上も前のことですが、空穂さんが長野県の人々の良い性格・習慣として「みやましい」という言葉を挙げており、きっとこの言葉と習慣を持ち続けてほしいという願いを持って書かれたのだと思います。

当時と今では時代も変わり、人々の生活も大きく変わりましたが、この「みやましい」という言葉は長野県の人々の良さとして、大切にしていければと思い、今日皆さんに紹介しました。「みやましい」の反対の言葉は何でしょうね。例えば、「めんどくさい」「やる気が出なくてやらない」などという、少し残念な言葉かなと私は思います。

空穂さんについては、この他にもいろいろなエピソードがあり、皆さんに知らせたいこともまだありますので、折を見て今後も講話や掲示で紹介していきたいと思えます。

皆さん、いかがですか。皆さんの郷土の大先輩である、偉大な空穂さんが大事に考えていた「みやましい」の心で、「なんでも ちょうせん ころを あわせて」を合言葉に、この2学期、皆さんのめあてに向かって取り組んでみてください。人間なので、途中で嫌になったり、自分でやろうとしてうまくできなかつたりすることもあるでしょう。めんどくさくなって挫折してしまうこともあるかもしれませんが、けれど、そんなときには、自分一人だけでなく、近くの友達や先生方、家族の皆さんに助けをもらいましょう。必ず皆さんのことを励ましてくれるし、応援してくれます。ぜひ、周りの人々と心を合わせて、2学期も頑張りましょう。

2学期も、本校にみんなの笑顔がいっぱいあふれ、一人ひとりにとっては、実りある2学期にしてほしいと思えます。



5年 アルプスタディ(9/7)



6年 修学旅行(9/13-14)



2年 乗り物遠足(9/22)